

日月会 プレ・フォロ 第13回 議事録

日時 2012. 03. 31 (Sat.)	時間 15:00-17:00	場所 武蔵野美術大学吉祥寺校 3号館1階食堂	記録 寺田晶彦
出席者(敬称略・順不同) プレ・フォロメンバー：池野、更田、吉村、寺坂、酒向、寺田			
陪席：小倉			
配布資料 プレ・フォロ第13回 議案書(事前プレ・フォロメンバーリングリストにて会長提示)			

事録議	備考
<p>1. プレ・フォロ現在の未定メンバーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮下ゼミのみ・・・どなたか推薦を求たいが、具体的な方法は見いだせなかった。 	<p>後日宮下先生から45期北嶋さんの推薦があった。 (会長報告)</p>
<p>2. 連絡網整備の報告と今後の展望について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備キャンペーン実施について時期や方法を検討していく。 ・2014年の50周年を目標として会員証の発行も一つの提案として、情報収集の検討をしていく。 ・竹山ゼミ・保坂ゼミの名簿整備も進めた方がよい。 ・第1回各期名簿収集(2010.9.21締切)で収集できた期は下記の通り。 2、4、16、17、18、20、21、23、24、25、26、27、28、31、32、33、34、36、40以上19期(但し、校友会への情報アップならびに日月会メールマガジンへの可否の確認ができていない期が、2、4、17期)特に4~16期など、大きく空いているところの収集方法が課題 	<p>継続懸案事項</p>
<p>3. 新規開設されたフォロのサポート体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・311サポート・フォロ、歴文・フォロのサポートメンバーが必要である。 ・前回議事録にもあるが、会員の作品見学会や展示会をもっと学生ほか各方面に周知して、会員参加機会を設けるべきである。そのためにも、歴文・フォロと連携していく方向で検討が必要である。 	<p>例として奈良寮見学、会員作品内覧会など</p>
<p>4. プレ・フォロを会則に定義する件について</p> <p>更田会長案の会則・規則改定案の協議</p>	

(会長提案の会則・規則改定案はメーリングリストにて配布のプレ・フォロ第13回議案書による)

第11、12回プレ・フォロでの意見をもとに日月会会則に定義する件について再協議を行った。

第11回での意見確認

- ・プレ・フォロは、誰のため、何のため、存続の意義は？
- ・会則を幫助する理念が必要である。
- ・大学との関係及び位置付けも重要である。
- ・プレ・フォロは、執行部とは別の位置付けである。
- ・世代によって大学に対する認識が違うが、違う世代の先輩、後輩とのつながりを持ちつつ話をするには有意義である。
- ・プレ・フォロの方向性を議論すべきである。

第12回での意見確認

- ・長く「プレ・フォロ」の存在理由をブレないようにしておくためにも、会長提案の追加文面も加えて、会則に表記しておくべきという意見に収束した。

第13回での意見

- ・前回までの議事と修正案を確認するとともに、プレ・フォロ活動の活性化を見越した会則とすべきという意見もあった。
- ・これまでの意見を踏まえ、会長提案の条文で執行部会での審議を求めることとなった。
- ・プレ・フォロを会則で定義することとは別に、プレ・フォロでの活動内容・協議内容をもっと幅広く捉えてもよいのではなかろうか・・・という意見も出された

以下、会則・規則の改訂案。

会則部

第五章 プレ・フォロ

第20条 (プレ・フォロ)

本会には会員の幅広い意見を取り上げ協議する場として、第21条に決められたメンバーで構成される「プレ・フォロ」と称する会議を設置する。

「プレ・フォロ」は、本会の活動の方向性を定めていくことを目的として随時開催し、本会の運営に反映すべくそこでの協議内容を本会執行部会に伝えるものとする。

また「プレ・フォロ」は、本会役員・執行部会に助言を与え、会の運営に協力するものとする。

<p>なお、プレ・フォロで協議された内容は、規則に定められた方法により会員に周知するものとする。</p> <p>第21条（プレ・フォロの構成）</p> <p>プレ・フォロは次のメンバーにより構成される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 5期ごとに選出された1名以上の正会員 2. 各ゼミ・各スタジオから選出された1名以上の正会員 3. 特別会員の中から選出された2名以上の特別会員かつ正会員 4. 会長 <p>規則部</p> <p>8条 会員への周知方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総会で承認された予算・決算・事業計画・事業報告は、本会ホームページおよびメールマガジンにより周知する。 2. プレ・フォロで協議された内容は、プレ・フォロで定めた担当者が議事録にまとめ、それを執行部会へ報告する。それを受けて執行部ホームページ委員は、本会ホームページに議事録を掲載し、会員へ周知するものとする。 	<p>規則は執行部会での決定事項</p>
--	----------------------

<p>5. 芦原賞・竹山賞の授賞式の開催について</p> <p>前回のプレ・フォロにて、卒業制作の審査・講評会を前にずらして、16:00 ごろから芦原賞・竹山賞の表彰式を行うよう変更希望を出した。</p> <p>・上記理由として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 鷹の台校舎に10:30に集まるのは、OBOGにとっては厳しく、参加モチベーションが上がらない。 2) 芦原賞・竹山賞の表彰式を卒業制作講評会の後にすることで、芦原賞・竹山賞の表彰式にも多くの学生に参加してもらえる。 3) そうすることで、学生に卒業生の仕事や活動について紹介できる、いい機会となるはず。 <p>研究室と協議した結果、</p> <p>・来年の開催日は、これまで通り卒業制作講評会と同じ日とし、卒業制作講評会・表彰式前12:30から行うこととなった。</p>	<p>日月会賞開催日（7月中旬の土曜日）に行ってはどうか、という意見も出されたが研究室の都合上そのスケジュールは難しいとの会長からの回答があった。</p>
---	---

<p>6. 新名誉会員（阿部公正氏）の推薦の件について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には賛成で総会での審議とするが、承認された場合、ご遺族に報告する必要はある。 	
<p>7. 日月会賞の審査員および、時期会長の候補者選定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度に持ち越しとする。 	
<p>8. その他、メンバーからの報告・提案・執行部に求めることなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレ・フォロの活動が、学生OBOGにとって魅力あるものとなるためにはどうしたらよいかいくつか意見がでた。 ・4. にて触れたように、会員同士の作品見学会、勉強会、事務所訪問等、セミナーとは違う、会員の自然発生的な交流の場を設けてはどうか。 ・せっかく各ゼミの代表の方がメンバーでもあるので、プレ・フォロの目的としては、ゼミの歴史などを聞かせてもらう機会とした方がよいのではないだろうか。 ・学生、会員への求人情報をもっと充実したものにすべきであり、そのことが将来的に日月会自体の活性化にもつながることになる。 	<p>先日催された会員による新築内覧会に参加したが、多くの方が見えていた。</p> <p>見学する側、主催する側双方にとって意義のあるものであると感じた。(寺田)</p> <p>次回プレ・フォロは、ゼミの歴史を聞く機会として、会長と寺阪が企画する。</p>